

工場に18ストールを備える全面改築された太田店

最新鋭のモデル店としてPR

富士顧客のカーライフ支援

【前橋】富士スバル(斎藤社長)は、サービス工場の全面改築を手掛けた太田店を同社のモデル店舗として位置づけ、最新鋭のスバル施設として積極的にPRしていく。新工場では、ナンバー読取りによる顧客管理システムや18ストールの作業スペースなど、最新鋭かつ国内最大級のハードを生かし、ユーザーのカーライフを万全な体制で支援する方針だ。同時に、夜間蓄熱を利用した空調設備や、LED照明などを配した「環境に優しい工場」としても幅広い浸透を図っていく。

同社の太田店は、富士重工のメイン工場(群馬製作所)に最も近いスバル拠点であることから、国内外から定期的に多くの来賓や視察者が訪れるという。こうした環境からも、世界に誇れる未来型の設備を整えるべく2010年にリニューアルプロジェクトを設立、その第一弾として拠点構内におけるサービス工場の移転改築を行った。

新工場最大の特徴は、「ナンバーキャッチシステム」の採用だ。拠点入口に2台の専用カメラを設置し、来店した車のナンバーを読み取ること

で顧客情報を識別する。もし、過去に来店歴がある場合には、顧客の名前や所有車のモデル、在庫予約の状況などを事務所内4カ所の液晶モニターに表示。インカムを利用することで、すべてのスタッフ

おり、大きな省エネ効果が表れているという。工場の最新化に伴い、会社ではキャンペーンなどを生かした来店誘致を図ることで、現在月600台の入庫台数を大幅に引き上げる構え。また、年度内には「リニューアル第二弾」として旧工場の跡地を生かした大型ショールームの開設を予定しており、併せて新車部門の営業ベースも一気に高めたいとしている。



2台のカメラで車両ナンバーを読み取り



新サービス工場